

「かつてはいいかげんな生活だった私の二十数年、この罪の生活からイエスさまは、私をみいだして『友』と呼んでくださったのです。どうか皆さんも、このいつくしみ深い、イエス様の愛を知ってください。」

(中略 第一テサロニケ4章13節引用)

皆さん、私は今日、このメッセージを顔と顔を合わせて語ることはできません。私は地上をこの通り去って天国にいます。私の肉体は、もうすぐ火葬に処せられるでしょう。しかし、皆さんもいつ同じ境遇に出会うかわかりません。ヘブル書に「一たび死ぬこと、死にてのち、さばきを受けること、人に走れり」とある通りです。

このおごそかな事実を、私たちは人々にも伝えなければなりません。信仰を持つ前の生活というのは、まったくだらしないものでした。いろいろな『水』を飲みました。しかし、『いのちの水』はありませんでした。ある夜のこと、家庭集会に入り、愛ある神を知ったのです。そして、いかに自分がいいかげんな生き方をしていたかがわかりました。一日七十本も吸っていたタバコがいらなくなったのは、私の修養ではありませんでした。キリストにある者は、新しく生まれた者です。皆さん、どんな人でも、二つの誕生日をもたなければなりません。一つは肉の誕生日、そしてもう一つは神の愛の恵みによって、またイエスの十字架のあがないによって『造りかえられる』

という体験です。皆さん、キリストの恵み、清めの恵みを、明確に持って下さい。

それと同時に、それを人々に伝える責任も私たちはもっています。死とは、恐ろしいものではありません。それは『天の門』です。待っている方がいるのです。舟がこちら側を出ます。行き先がわからないとします。もし悪いことをした人だったらそれは、不安でしょう。でも私達には永遠の御国が待っています。痛快じゃありませんか。岸田牧師は、東京っ子で、口が早く、強がりばかり言う、と私の欠点は忘れてくださいヨ。イエスさまのために救霊、救霊、伝道、伝道と走っていたことを思い出してくださいヨ。クリスチャンにとっては、一年中いい日ですね。この世を去る日は永遠の天国へ入れる日だから最高の日です。悲しい歌なんか歌わないように。元気のいい歌を歌ってくださいよ。明るいキリストの福音を明るく伝えてくださいよ。少しぐらい迫害がくるかもしれないよ。それぐらい覚悟しないとだめですよ。それがやがて、お目にかかりましょう！天国で待っていますよ！

【礼拝賛美】鹿のように(2回)

谷川の流れを慕う鹿のように
主よわが魂 あなたを慕う
あなたこそ わが盾
あなたこそ わが力
あなたこそ わが望み
われは主を仰ぐ

あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのため、場所を用意しに行く、と言ったでしょう。あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

ヨハネの福音書14章1〜3節

シオン教会創立者、岸田愛治牧師は非常にユニークで、いつも人と違うことをして驚かせたと伝え聞きます。今風に言えば、人の考えの斜め上に行く、というところでしょう。様々なエピソードが語り継がれますが、ご自身の葬儀についても語り草。

式の途中で流された録音は、愛治牧師が自身の葬儀のために自分で用意した説教でした。「皆さんがこの録音を聞くときには、私はこの世にはいません」といつもの調子で聞こえてくる。現代では、ビデオだスマホ

だと録音どころか録画が手軽にできるから決して珍しいことではないでしょう。けれども創立者が召されたのは1976年(昭和51年)。まだまだ録音機器が家庭にあることが珍しかった時代のこと。最後まで人を驚かせたのです。

このエピソードを改めて考えると、愛治牧師の振る舞いは今で言う『終活』です。自らの地上の生涯の締め括りを見据えた備えです。遺言は昔からありますが、『終活』が社会で言われたのは2009年のこと。

「信徒のみならず、すべての人もこれくらい心のぞなえが必要」と語った愛治牧師。どれだけ時代を先取りしたのかと驚かされます。

愛治牧師の行動の源泉はなんでしょう。か「死」を受け入れ、天を見上げていたことです。これはクリスチャンの特権です。キリストを信じる者には死は終わりではありません。聖書は告げます。天には私たちのために住まいが備えられている、と。ですから、死んだらどこへ行くのかと不安になる必要はありません。そしてそれは残された者にとっても大きな慰めです。愛する者がどこへいったのかと捜さなくてよいからです。

「私たちの国籍は天にあります」
なんと大きな慰めでしょうか。
先に天に召された先輩たちの後ろ姿に見なれいませよ。(泰)

9月24日 召天者記念礼拝

第1礼拝 9時 荻野牧師 荻野し兄
第2礼拝 11時 武山兄 高橋美姉

前奏

招詞 イザヤ書49章13節

会衆賛美 196

会衆賛美 鹿のように(2回)

主の祈り

交読 詩篇23篇1〜6節

礼拝祈禱

使徒信条

聖書朗読 ヨハネの福音書

14章1〜7節

説教 備えられた住まい

荻野泰弘牧師

会衆賛美 聖歌694

献金

頌栄 聖歌376

祝祷

報告

感謝祈禱 奏楽

【招詞(主の招きのことば)】

イザヤ書49章13節

「天よ、喜びの声をあげよ。地よ、小躍りせよ。山々よ、歓喜の声をあげよ。主がご自分の民を慰め、その苦しむ者をあわれまれるからだ。」アーメン

【本日の予定】

■会堂清掃 第1・第2礼拝終了後

■小学科ホザナ礼拝 3階 11時

■バイブルカフェ

談話室 12時15分

■墓地礼拝送迎バス集合

玄関前 12時45分

【次週の礼拝説教】

〔説教者〕 荻野牧師

〔聖書箇所〕 ピレモンへの手紙 1〜25節

【本日の礼拝奉仕者】

■第1礼拝

礼拝祈禱 司会者

聖書朗読 司会者

献金1階 司会者

献金祈禱 司会者

報告 司会者

受付 司会者

配信 配信チーム

■第2礼拝

礼拝祈禱 荻野牧師

聖書朗読

献金1階

1階

2階

献金祈禱 司会者

報告 荻野牧師

会場 受付

【教勢報告】 9/17

・第1礼拝 28名

・第2礼拝 32名

・小学科礼拝 3名

・ホザナ礼拝 6名

・こひつじ礼拝 1名

■召天者記念礼拝

「私たちの国籍は天にあります。」

ピリピ人への手紙3章20節

■午後 墓地礼拝

場所 多磨霊園

時間 14時半〜



*教会からの送迎バス利用の方

12時45分 玄関前集合

*自家用車等で行かれる方

霊園地図は礼拝堂受付にあります。

*厳しい暑さです。水分をこまめに摂り、熱中症の対策をしてください。

*墓地管理料 納入される方は、所定の封筒で納めてください。

【お知らせ】

■10月の各会例会 オリーブ会と

ミモザ会は、召天者を偲ぶ時として10月の例会を行います。オリーブ会

(1日)は久仁子伝道師の記念会として思い出を分かち合います。ミモザ会(29日)はコロナ禍の期間に召

された姉妹方の合同記念会と位置づけミモザ会のほかにも関わる兄弟やご家族にも声かけをしています。

■第7回日本伝道会議 参加報告

10月1日 礼拝後

礼拝後の短い時間ですが証しによる参加報告です。

■聖書を学ぶワークショップ

10月8日 午後

先般、豊田兄が新来者学び会「バイブルカフェ」の助けにと、聖書の学びのテキスト「イエス伝」を作成されました。ワークシート形式で、これを使って作業をしながら聖書が学べます。今回はそのテキストを用いた学びで、テーマは「クリスマス」です。どなたでも参加できます。楽しいですよ。

【お詫び】創立の記念品について、郵送

したもので、届いた時にボールペンが破損していた事例がありました。輸送中の出来事と思えます。不備をお詫びします。そうしたことがあればお知らせください。新しいものを送ります。